



ミドルリーダーの挑戦  
—前へ! 前へ!!

# 研究主任というチャンスを生かし 学校全体、そして自身の授業力向上を図る

岡山県岡山市立福南中学校 **横林慎也** 32歳



Middle  
Leader

よこばやし・しんや◎教職歴9年目。岡山東支援学校に勤務後、同校に異動。赴任して6年目。担当教科は数学。モットーは「汝何の為に其処に在り哉」

これまで私が歩いてきた道のり

**自分を高める  
チャンスとして  
大役にチャレンジ!**

2011年度から本校の研究主任を務めています。31歳で学校全体に影響を与えるような責任ある仕事を任せていただいたわけですから、プレッシャーがなかったと言えればウソになります。ただ、日頃から授業研究に関心を持っていた私は、「他校の先生とも意見交換できるなんてとても恵まれていることだ」「きっと先輩方が支えてくださるから大丈夫」と自分に言い聞かせ、研究主任という大役を教科指導力を向上させ

るチャンスと考えたのです。

私の初任校は特別支援学校でしたので、一般中学校での勤務は本校が初めてでした。赴任当初は、教科書のポイントを解説することばかり重視していました。授業中、生徒は落ち着いてはいたものの反応は少なく、私の解説ばかりが多くなり、雰囲気は次第に重苦しくなっていました。このままではいけないと他校の研究発表などにも積極的に参加する中で、「生徒の反応を生かしながら進める授業にしたい」と考えるようになっていったのです。

赴任3年目から実践しているノート指導も、生徒の言葉、反応を引き

出す指導の1つです。中学校の勉強は板書を写せば終わりではありません。自分の頭で考え、自分の言葉で学んだ内容をまとめ直す力は、高校や大学での学びでも必ず必要になります。ノート指導を通して、学びの土台を中学生のうちにしつかりと築かせたいと考えました。(P.27参照)

このように、指導力向上を模索していた私に、研究主任をやってみないかと声が掛かったわけです。管理職や先輩の先生方が、私の授業改善に対する思いを感じ取って、この立場を与えてくださったのだらうと思うと、とてもうれしかったです。

**日々の授業改善に  
つながるよう  
研究テーマを焦点化**

研究主任になって重視したのは、研究テーマを出来るだけ焦点化し、具体的な授業改善に結び付けることです。研究テーマが漠然としていると、何のために研究授業を行ったのかが分かりにくく、研究後の成果の見取りもあいまいになります。協力してくださった先生方に「大変だった」「やっと終わった」という思いしか残らないような研究にはしたく

ない。その思いからテーマの絞り込みにはかなりこだわりました。

11年度の研究テーマは「きく力をつける授業」としました。今の中学生はコミュニケーション力に課題があると言われています。本校では、「きく力」を「教師の指示や説明を集中してきく力（聴く力）」「他の生徒の考えに対して質問をしたり、共有したりする力（訊く力）」と捉えました。そして、「きく」に焦点を絞って生徒のコミュニケーション力を伸ばしていこうと考えたのです。

授業における聴く力とは何か。先平方と議論を重ねました。「グループワークでは、相手の話をどういうふうに聴けばよいのか」など、普段の授業を振り返りながら、「きく力」

を養う授業や指導がどのようなものかを話し合いました。

研究協議を円滑に進めるためにワークシヨップの技術も学びました。が、「これは生徒とのコミュニケーションでも使える」などと気が付くこともあり、研究を通して得たさまざまな知識が自分の中で広がったのを感じています。

テーマを絞り込んで研究を進めることに対して、周囲の先生方には異論もあつたかもしれません。でも、「横林先生がやってみてみたいのなら」と快く受け入れてくださいました。私の考えがまとまらず、資料の配布が遅くなったこともありましたが、それでも変わらず協力してくださいました。本当にありがたいことです。

### 今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

## 当たり前前のことを 一歩引いて見直す風土を 確実に引き継ぎたい

今、興味のあるテーマの一つは「学び合い」です。グループワークは既に多くの授業で取り入れています

が、本当の学び合いになっているのか、そもそも学び合いとは何かを先平方と考えてみたいと思います。このように、既に当たり前前に取り組んでいることも一歩引いて見直す風土が、中学校における「研究風土」であり、それが根付いていることが

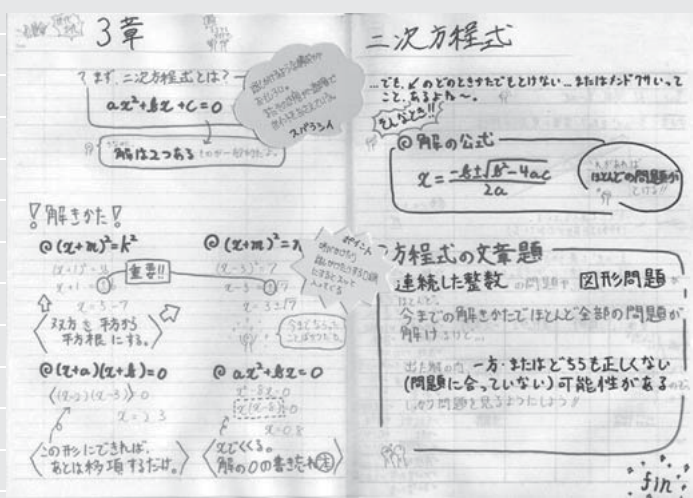
本校の強みだと感じます。研究は継続してこそ価値がありますから、私の次に研究主任を務める先生にも、今の風土を確実に引く継ぐことが大切です。学校現場では、研究指定の終了や教師の異動のタイミングで成果がリセットされてしまうことがあるので、研究や異動の切れ目が指導の切れ目とならないように、学校に成果が蓄積していくシス

テムも確立していきたいと考えています。それが出来れば、本校の生徒たちの学びはこれからもますます豊かなものになるはずですよ。これからも先生方との語り合いを通して学び、更に自分自身の授業を改善しようとする姿勢を見ていただく。それが、若くして研究主任という大役をいただいた私の役割なのだと思います。

## 学び方を伝えるノート指導

### 横林先生の取り組み

◎私の授業では、各単元の最後に2ページを使って「まとめのページ」をつくらせます。それぞれの生徒が、自分の言葉で間違いやすいポイントを整理、説明するのです。上手にまとめられたノートには、どのような整理の仕方、まとめ方が良かったのかのコメントを添えて、見本として教室に掲示します。



「話しかけるような口調の文章でまとめると、読む人が理解しやすいね」など、理解した内容を他者に発信するという観点からも生徒のノートにアドバイスを加えている。

\*プロフィールは取材時（2012年3月）のものです